

# 天文学と猫 第40回 プラネタリウム



www.tenpla.net



今月のお題

## 海外出張で見る世界の天文グッズ



■新企画・大規模構造扇子についてはウェブで!

世界各地の天文グッズをご紹介します。  
変わらない宇宙もそれぞれの国の見方で様々に楽しめます。

高梨直紘 (東大D3/天文学教育研究センター所属)

平松正顕 (東大D3/国立天文台ALMA推進室所属)

### 世界天文グッズ事情

国際研究会や条件の良いところでの観測など、天文学を研究していると海外のいろいろなところを訪れる機会があります。ハワイ、チリ、オーストラリア、中には南アフリカに頻繁に行く人も。そのような異国の地で、日本ではあまり見かけないその場所ならではの天文グッズを目にするのも楽しいものです。

あるとき打ち合わせのために訪れたアメリカ・ニューメキシコ州にある電波天文台VLAでは、その土産物屋の充実ぶりに驚かされました。ポスターやマグカップ、Tシャツ、VLAが舞台になったいくつかの映画のDVDまで。ここでは、ハッブル宇宙望遠鏡のきれいな写真が使われている“Hubble Science Cards”というものを買ってみました。アメリカでは、表にイラストと簡単な質問、裏面にはその答えと解説が書かれた“knowledge card”という類のものがポピュラーなようです。「ビッグバンって何?」「超新星はどうやって起きる?」など、基本的な天文学の知識が満載されています。

さらには、現地の天文雑誌を買ってみるのも面白いですね。空港の売店で天文雑誌が売られていることもよくあります。フランスやスペインなどの雑誌は、言葉がわからないので全部理解することはできないのですが、それでもイラストや写真からどんな記事が想像がつかます。宇宙に言葉の壁はないですからね。載っている星図の違い(星座の結び方や緯度による見え方)や取り上げられている話題の違いを楽しむのも面白いでしょう。

筆者(平松)は先日までチリに出張してきました。飛行機の乗り継ぎ時間を使って天文雑誌や星座早見盤を探したのですが、結局見つけることができませんでした。北は南緯20度あたりから南は(彼の国の主張に従えば)南極点まで広がっているこの国では、場所によって見える星空が全く違ってしまいます。そのあたりをどう表現しているのかちょっと興味が 있습니다。さらに世界中の天文研究機関が望遠鏡をこの国に設置しているのでそのあたりの取り扱いも見てみたかったのですが、残念です。

皆さんも海外に出かけたときには、いろいろ探して楽しんでみてくださいね。



各所で手に入れた雑誌やグッズ。  
星座早見盤は赤道直下のインドネシアで。北極星が地平線上にあります。



小学校の天文教室で講師を務める平松(左)と、直前まで釣りに興じていた高梨(右)。